

アクサ生命寄付講座 大学で初の開講

幸本副社長が講演

世界の保険業界をリードするグローバル企業、アクサ生命の幸本智彦副社長が、6月23日、生田キャンパスでの経営学部寄付講座(加藤茂夫教授、前期全15回)に登壇、「社会保障の現状と課題」をテーマに講演した。幸本副社長は同社が担う社会的使命を披露するとともに「未来に向けて人生を経営する姿勢が大切」と約100人の学生に語りかけた。



▲ 幸本副社長(左)と加藤教授

アクサ生命は、世界的な保険・資産運用グループであるAXAの日本拠点として1994年に設立された。世界56カ国に1億人の顧客を持つAXAグループは、インターブランド社のグローバル

本寄付講座は、同社の経営陣と幹部から生命保険会社の仕組み、役割、使命などを学び、生命保険の深層に触れる貴重な機会。学生がライフプランを設計する際の指針と

ブランドランキングの保険会社分野で5年連続世界1位、金融安定理事会(FSB)が定めるグローバルな金融システム上重要な世界の保険会社(GIIS)のリスト9社の中に選ばれている。同社が

「一連の講座はどれも綿密な理論と豊富な経験に基づいた魅力的な講演ばかり。公開講座にしたいほどだ」と話す。幸本副社長は「現在、日本の社会保障制度(▽保健・医療▽社会福祉▽所得保障▽雇用)は危機

的状況にあり、改革を迫られている」と切り出し、「その状況を把握し共有した上で次の行動に取組むべきだ」と現実を直視する姿勢を訴えた。第一の問題点として挙げたのは、社会保障給付費が急激に膨れ上がっていること。日本の公的年金制度は高齢者を現役世代が支える賦課方式で、少子高齢化による生産年齢人口の減少が負担給付の構造に影響を与えている。また高齢化や医療技術の進歩が医療給付の膨張につながっている。などを例に解説した。

「社会保障制度は日本人の生活基盤を支えてきた。世界に誇るべきもので、なんとしても守るべきだ。プライマリーバランスの適正化を視野に、ムダを省く給付内容の最

生命保険の役割 社会保障制度を「補完」



「人生を経営する努力を」

適化が必要」と語り、「今後、重要になるのが『自助』の精神。それを国民一人一人が認識しなければならぬ」と強調した。「社会保障を「補完」し、『自助』の精神を支えるのが民間の生命保険会社の役割」として、アクサ生命の基本理念である「Defining Standards(同)は「少子高齢化、生産年齢人口の減少など大きな問題。今までは健康寿命を伸ばし、生産年齢人口を増やすため、病気の進歩が医療給付の膨張につながっている。などを例に解説した。

「社会保険制度は日本人の生活基盤を支えてきた。世界に誇るべきもので、なんとしても守るべきだ。プライマリーバランスの適正化を視野に、ムダを省く給付内容の最適化が必要」と語り、「今後、重要になるのが『自助』の精神。それを国民一人一人が認識しなければならぬ」と強調した。

熊澤敏幸さん(4年次)は「生命保険業界の経営トップから話が聞ける貴重な機会を築き上げてくれた。柔軟な人柄と意思決定の早さが伝わってきた」。斉藤亮介さん(同)は「少子高齢化、生産年齢人口の減少など大きな問題。今までは健康寿命を伸ばし、生産年齢人口を増やすため、病気の進歩が医療給付の膨張につながっている。などを例に解説した。

「いまを生き、いまを知る」——ジャーナリズムにまつわる事象を網羅的に解説する初の事典『現代ジャーナリズム事典』(三省堂)が刊行された。法律家、研究者、現役の新聞記者ら約90人が執筆を分担、約700項目を50音順に収録。思想・倫理・運動・表現・裁判・事件・規制・団体などが多岐にわたる内容を取り上げている。

グローバル企業の経営トップ 幸本智彦さんに聞く

少子高齢化の現状と社会保障制度の認識の重要性、生命保険業界の役割を講演したアクサ生命の幸本副社長にお聞きした。

「アクサ生命の人材育成、社員が力を発揮するために取り組まれていることは、」

「クホルダーから選ばれる企業になること。それを進める戦略を生かすために、しっかりとした企業文化が必要です。常に建設的に取り組むことを基

「クホルダーから選ばれる企業になること。それを進める戦略を生かすために、しっかりとした企業文化が必要です。常に建設的に取り組むことを基

「クホルダーから選ばれる企業になること。それを進める戦略を生かすために、しっかりとした企業文化が必要です。常に建設的に取り組むことを基

「クホルダーから選ばれる企業になること。それを進める戦略を生かすために、しっかりとした企業文化が必要です。常に建設的に取り組むことを基

「クホルダーから選ばれる企業になること。それを進める戦略を生かすために、しっかりとした企業文化が必要です。常に建設的に取り組むことを基

将来の道を描き 信念を持つ人に

「みなさん、本姿勢にしています」

「みなさん、本姿勢にしています」

「みなさん、本姿勢にしています」

「みなさん、本姿勢にしています」

「みなさん、本姿勢にしています」

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

「若い皆さんに、早い段階で人生のリスクを理解し備えることが大切というメッセージを伝えたい。この講座は当社の経営の柱でもある企業の社会的責任を果たす取り組み

集団的自衛権を考える 外務省局長招き外交講座

集団的自衛権を考える外務省局長招き外交講座が7月3日に神田キャンパスで開かれた。講師は外務省国際法局長の石井正文氏。前々日の1日、集団的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更が閣議で決定された直後とあって、広瀬瀨子と学生に呼びかけた。

石井氏は「日本の選択…傾向」と「対策」と題し、国際情勢の変化と国内事情を解説。憲法9条の字面からみれば、日本は軍備を持っていないように見えるが、全体的解釈によって国の存立のための必要最小限

石井氏は「日本の選択…傾向」と「対策」と題し、国際情勢の変化と国内事情を解説。憲法9条の字面からみれば、日本は軍備を持っていないように見えるが、全体的解釈によって国の存立のための必要最小限



▶ 学生の質問に答える石井氏

石井氏は「日本の選択…傾向」と「対策」と題し、国際情勢の変化と国内事情を解説。憲法9条の字面からみれば、日本は軍備を持っていないように見えるが、全体的解釈によって国の存立のための必要最小限

石井氏は「日本の選択…傾向」と「対策」と題し、国際情勢の変化と国内事情を解説。憲法9条の字面からみれば、日本は軍備を持っていないように見えるが、全体的解釈によって国の存立のための必要最小限

専修人の新しい本



原発報道などでジャーナリズムのあり方が根本から問い直されている。また、表現の自由を制約する社会の動きが目立ってきた。山田健太教授は「表現の自由や社会の目指すべき方向を一人一人が考える。そしてジャーナリズムをみんなが理解し、その健全な発展を守っていく。そうした社会作りのためにぜひ多くの人に手にしてもらいたい」と話す。

「いまを生き、いまを知る」——ジャーナリズムにまつわる事象を網羅的に解説する初の事典『現代ジャーナリズム事典』(三省堂)が刊行された。法律家、研究者、現役の新聞記者ら約90人が執筆を分担、約700項目を50音順に収録。思想・倫理・運動・表現・裁判・事件・規制・団体などが多岐にわたる内容を取り上げている。

「いまを生き、いまを知る」——ジャーナリズムにまつわる事象を網羅的に解説する初の事典『現代ジャーナリズム事典』(三省堂)が刊行された。法律家、研究者、現役の新聞記者ら約90人が執筆を分担、約700項目を50音順に収録。思想・倫理・運動・表現・裁判・事件・規制・団体などが多岐にわたる内容を取り上げている。



経営する傍ら、地元指導者として台頭し、人種差別に反旗を掲げて息長く奮闘した。本書は、ヘンリーの語ったその半生を、アイルランド系活動家コンスタンス・カリーがまとめた貴重な回想録(Aaron Henry: The Fire Ever Burning)の全訳である。歴史に刻まれた差別の根深さ・絶望・恐怖・対立・仲間意識・怒り・笑い・希望が、読む者の心に迫る好著。(彩流社・本体4500円十税)

「アメリカ公民権の炎」は、ヘンリーの語ったその半生を、アイルランド系活動家コンスタンス・カリーがまとめた貴重な回想録(Aaron Henry: The Fire Ever Burning)の全訳である。歴史に刻まれた差別の根深さ・絶望・恐怖・対立・仲間意識・怒り・笑い・希望が、読む者の心に迫る好著。(彩流社・本体4500円十税)

「アメリカ公民権の炎」は、ヘンリーの語ったその半生を、アイルランド系活動家コンスタンス・カリーがまとめた貴重な回想録(Aaron Henry: The Fire Ever Burning)の全訳である。歴史に刻まれた差別の根深さ・絶望・恐怖・対立・仲間意識・怒り・笑い・希望が、読む者の心に迫る好著。(彩流社・本体4500円十税)